

2021 年 3 月 8 日英語シンポジウム アンケート結果

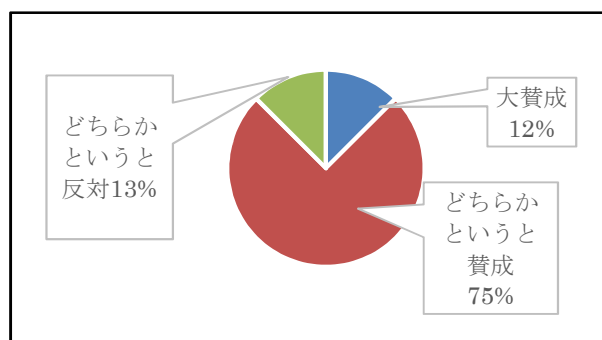
2020 年度から新学習指導要領が順次施行され、この 4 月からは、いよいよ中学校では新しい教科書を用いての授業が始まります。本シンポジウムを開催するにあたり、会の冒頭でご参加いただいたみなさまに現在の英語教育改革、ならびに英語指導についてのお考えをお聞きしました。その結果を報告いたしますので、ご確認ください。

NEA 事務局

Q1 大学入学共通テスト、高大接続、小中高の新学習指導要領による指導について

90%近くの方が今回の教育改革に賛成という結果。

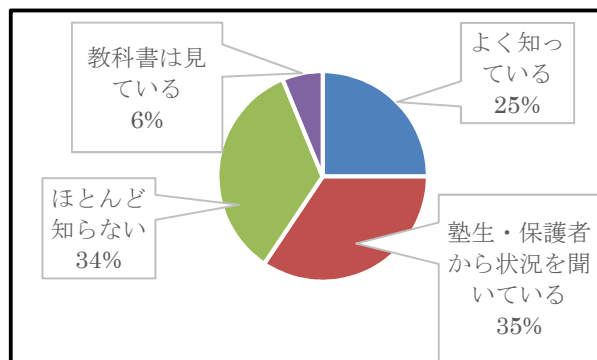
しかし、どちらかというとな賛成が 75%あり、条件付賛成である。学習塾の英語指導の課題設定を行い、生徒により価値のある英語指導を提供していただくことが大切となる。



*大反対と回答した方は
いらっしゃいませんでした。

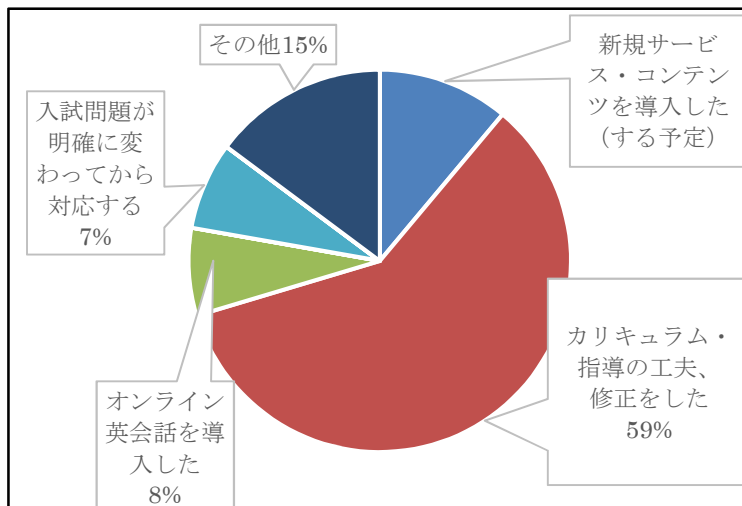
Q2 地域の小学校英語の現状はどのくらい把握されていますか？

2020 年はコロナ禍もあり小学校英語の教科化の状況をしっかりと確認することが難しかった状態である。しかし、オンライン授業でもそうだが、地域間格差、学校間格差、教師間格差は、大きく生じてしまう。英語の取得は、そういった環境格差は結果としては不利になってしまう。地域情報なども共有して、生徒に学びの不均衡が生じないよう民間教育機関の力を結集して対応していく。



Q3 新学習指導要領施行にあわせて、どのようにお考えですか？

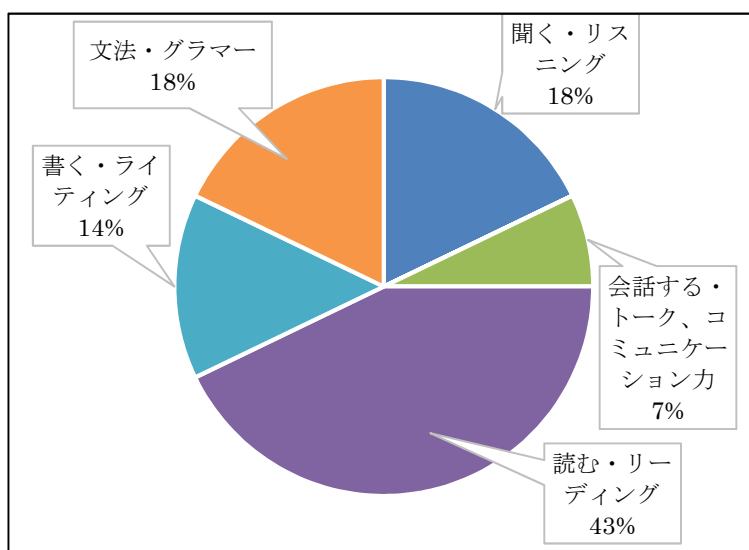
約 80%の人が、今回の教育改革に何らかの対応をしている。現段階ではスモールチェンジでの対応となるが、入試の変化や学校での学び・定期テストの状況変化によりビックチェンジも必要となる。そのための準備について、知恵を結集していく。



*「顧客のニーズが具体的になってから対応する」「特に指導方法等をかえるつもりはない」と回答した方はいらっしゃいませんでした

Q4 学習塾として重要視すべきなのはどの技能でしょうか？

「話す・スピーチ」が 0%、「会話する・トーク・コミュニケーション力」が 7%と圧倒的に低い結果。一方、「読む・リーディング」は 43%と突出した数字となっている。学習塾の指導としては当然の数字であるが、今後の指導バランスのベストプラクティスは何か？ 生徒の習熟段階や学校の変革次第で影響は受けるが、新しい英語の学びを創出していく。



*「話す、スピーチ」と回答した方はいらっしゃいませんでした

Q5 外的要因において、影響が大きいというもの（経営・運営・集客）について、
すべてお選びください。（複数選択）

外的要因が影響するトップ3は、「4技能の総合的指導」「中学校の英語教科書改訂」「小学校5、6年生の英語活動化」。まさに学習塾の英語指導のニューノーマルの創出が必要といえる。

